

国民スポーツ大会 大阪府新体操男子代表選手の選考規定

【新体操男子】

〔第1次選考〕

「大阪高校選手権」または「大阪ジュニア新体操選手権大会」、「国民スポーツ大会大阪府新体操男子代表選考会」の結果をもとに、国民スポーツ大会大阪府代表候補選手を選ぶものとする。

また、上記3大会を第1次選考会とする。

〔候補選手について〕

大阪府代表候補選手は、以下の(1)・(2)または(1)・(3)に該当する者とする。

- (1) 2006年4月2日から2010年4月1日までに生まれた中学3年生から高校3年生までの大阪体操協会の加盟団体に所属する者。
- (2) 「大阪高校選手権」または「大阪ジュニア新体操選手権大会」において団体競技で優勝、または「国民スポーツ大会大阪府新体操男子代表選考会」において、個人競技各種目の上位2位に入賞した者。
- (3) 第1次選考会に特別な事情により出場できなかった者で、推薦書の提出があり、大阪体操協会が認めた者。

※ 候補選手、並びにその所属代表者に対して国民スポーツ大会近畿ブロック予選への参加と大会に向けた練習会への参加について説明会を実施し、本人、所属代表者、保護者はその内容に承諾・同意の上、指定書類に署名し、大阪体操協会に提出することとする。

〔第2次選考〕

第1次選考会の後、大阪府代表選手7名（正選手5名、予備登録選手2名）を選出するための第2次選考会を実施する。第2次選考会の選考基準は以下の(1)～(3)の項目に定める。

- (1) 徒手体操に優れ、団体競技選手としての適性は高いか。
- (2) タンブリングや組体操など、難度の種類と内容は十分であるか。
- (3) 個人競技における投げ上げの難度、手具操作の多様性はどうか。

※以上の項目の詳細は別表1を参照

第2次選考会では、審判員により以上の3項目の採点を行い、その合計得点を算出する。その後、大阪体操協会理事会で審議の上、合計得点の高い7名を国民スポーツ大会大阪府代表選手とする。

3. 代表チームの演技、監督は以下の通りとする。

〔演技〕 代表選手人数が多い所属の団体演技を大阪府選抜チームの演技とする。

〔監督〕 原則として、代表選手人数が多い所属の監督が大阪府代表監督を務めるものとする。
但し、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認体操コーチ3、または公認体操コーチ4のいずれかの資格を有する者とする。

※別表 1

【国民スポーツ大会 大阪府新体操男子代表選手 第二次選考会 採点基準表】

項目（１）…徒手体操に優れ，団体競技選手としての適性は高いか		採点（0～5点）
①	上・側拳，前・側倒の基本姿勢（かかとの高さ，肩のライン，指先の美しさ）	
②	胸後半，斜前屈，上下肢，体回旋の基本徒手（深さ，力強さ，大きさ）	
③	ステップや移動の技術（つま先の美しさ，跳躍の高さ，スピード，距離）	
④	柔軟性は十分であるか（開脚柔軟，背骨の可動域，肩回りの可動域）	
⑤	倒立やバランスなどの静止技の技術（4秒以上の静止，姿勢の美しさ，難度）	
項目（２）…タンブリングや組体操など，難度の種類と内容は十分であるか		採点（0～5点）
①	高難度のタンブリングはできるか（D難度～5点，C難度～3点，B難度～1点）	
②	後方宙返り1回～1回半ひねり以上，または宙返りの連続はできるか	
③	三回連続の後転とびから後方伸身宙返りが減点なくできるか（同調性，着地）	
④	B～D難度のタンブリングからロンダートを自然に繋げられるか。	
⑤	組体操の技術（ベース，トップ，スポットのいずれかの技術）	
項目（３）…個人競技における投げ上げの難度，手具操作の多様性はどうか。		採点（0～5点）
①	投げ技（徒手系）の難度（加点技，難度，種類，独創性）	
②	投げ技（タンブリング系）の難度（加点技，難度，独創性）	
③	加点要素の技術（視野外・手以外の投げ上げ・受け，次々投げ，受け同時投げ）	
④	手具の特性を活かした操作や技	
⑤	タンブリング中の手具操作技術	
合計得点(75点満点)		